

平成28年度 地域懇談会（豊浦支所管内） 記録	
日 時	平成29年1月30日（月） 午後7時から8時まで
場 所	豊浦交流センター 2階1号会議室
出席人数	（1）市民 7人 （2）事務局 教育長、教育部長、学務課職員、適正配置推進室職員 計12人
内 容	（1）学校の適正配置について （2）意見交換
事務局説明	（1）資料1について （2）小中学校適正規模に関する意識調査（途中集計）について [資料なし] （3）日立市学校教育振興プランについて
意見交換	<p>（ 意 見 ） 学校の適正配置として、市がイメージしているものはあるか。</p> <p>（ 教育部長 ） 白紙の状態である。小さいから統合というように単純にはいかない。コミュニティとの関係もあるので簡単にはいかない。基本的な方針を検討する中で、さらに詳しく地域ごとの意見を伺う必要があると感じている。地域ごとに違った結果が出てくることもあるだろう。地域の理解なく強引にできるものではない。</p> <p>（ 質 問 ） 小学校ごとにコミュニティがある。そのあたりはどう考えるか。</p> <p>（ 教育部長 ） 現実的な課題だと認識している。場所によっては難しいと考えている。</p> <p>（ 事務局 ） 国の標準規模は、小中学校ともに12学級から18学級とされている。茨城県では、小学校は12学級以上（クラス替えができる規模）、中学校は9学級以上（主要5教科教員を複数配置できる規模）が望ましいという基準が出されている。 あくまでも目安である。地域性を考慮しながら検討を進めていく。</p> <p>（ 質 問 ） 平成30年度末（平成31年3月）に計画がまとまるスケジュールだが、豊浦小学校は平成31年に新校舎ができる。計画とずれているように感じる。新校舎の学級の見込みなどはどうなっているのか。 市全体を見ると、北部に児童生徒が多く南部に少ない。偏りがある。学校の配置について市はどのようなイメージを持っているのか。 中里地区の小規模特認校制度は、小規模校の特色を生かすとして始まったのではないか。小規模校を統合していくとなると逆行していないか。</p>

(事務局)

学校の適正配置には、いくつか手法がある(小学校同士、中学校同士、小中一貫、学区の見直しなど)。地域にあった手法を検討していきたい。

耐震性を満たさない校舎については、早急に何らかの手を打つことになっているので、今回の計画と整合がとれないところもある。

小規模特認校制度は、複式学級を解消することも目的の一つである。中里地区は市街地から離れているので、スクールバスを使っている。

それぞれの地域の特性に配慮しながら、総合的に検討していく。

(教育部長)

計画の中にスケジュールも含まれる。5～10年のスパンの中でどうしていくかという内容になる。小学生が通学可能な距離があるので、統合するなら、(通学のために)どのような方法があるのか、という内容になるイメージだ。

(教育長)

小規模特認校は、全市から通学できる制度である。また、小中一貫教育を他の小中学校とは違うカリキュラム(コミュニケーション科)で行っている。英語教育を小学1年生から、能や落語などを通したコミュニケーションの学習を行っている。小中学校の教員が相乗りで授業を行うなど工夫をしている。

他の学校では、小中連携教育として、中1ギャップなどがないように取り組んでいる。

10年後、20年後を一緒に考えていただきたい。

(意見)

人口分布を見ると、このくらいが丁度いいのではないか。

(質問)

日立市における財政上の問題とは、どのようなことか。

また、豊浦小はコミュニティスクールに取り組んでいるが、統廃合によって地域の方が参加しにくくならないようにしてほしい。小中学校と地域の方との良い関係が築いていけるように考えてほしい。

(事務局)

耐震化や老朽化のための建替えなど、大きな予算が必要になるものはある。子どもたちに必要な環境を整えていくためにはどうすればよいかを考えていかなければならない。適正配置を行うことで生み出せるかもしれない財源を、学習の資機材や人的配置の充実に充てていきたい。学校をなくせばお金が浮くという単純な考えではない。子どもたちの未来のために、どこに重点投資していくべきかを考えるという意味で財政上の課題としている。

(教育部長)

(南北に長い)日立市の地形上、公共施設を作るには効率の悪い面もある。どこかで手を入れないと維持できない。いろいろな分野で効率性を追求することが必要。

小中学校の校舎が物理的に離れていても連携することはできる。9年間のスパンで考えた方がよいという意見もある。連携の有り様を考えていく必要があると考えている。

(質 問)

小規模校を含む地区の懇談会で、特徴的な意見はあるか。

アンケートの自由記載で、特徴的なものはあるか。

(事務局)

東小沢小の保護者の方からは、「不安に感じることは？」との問いかけに対し) P T A活動の負担が大きいとの意見があった。また、教員が少なく、出張などで不在の時もあり、学習の進捗や理解度に影響がないか不安があるとの意見があった。仮に、統合になった場合、通学上の安全性、送迎の不安(負担)についても意見が出た。

十王では山部地区からの参加が多かった。小規模校ならではの取り組みをしているので、存続させてほしいという意見が多かった。一方で、元教員の方からは、(小規模校勤務の経験から)良い面もあるが、複式学級の難しさもある。少な過ぎると子どもたちにとって課題もある。課題が解消できなければ、子どもたちのために統合もやむを得ないという意見があった。

アンケートの自由記載については、本日、資料を持ち合わせていないので、別の機会に披露したい。

(意 見)

豊浦小裏側に道路も整備している。(北西側)は山に囲まれており、子どもたちの通学が心配だ。街路灯を早めに設置してほしい。

(事務局)

通学路の安心・安全は大切なことだと考える。地元からの要望として担当課に伝える。

(教育長)

温かいご意見をいただいた。今後の開催に当たっては、時間設定なども工夫していきたい。

地域ごとの事情を考慮しながら取り組んでいきたい。